

平成22年度事業報告

財団法人元興寺文化財研究所

平成22年度事業報告

1. 補助金等事業

(社)平城遷都1300年記念事業協会 県民活動支援事業助成金

「元興寺禅室の屋根裏探検 - 日本最古の現役建築部材の公開 - 」

世界遺産・元興寺の極楽堂と禅室は、飛鳥寺から運ばれた部材を残す貴重な古建築物であるが、その多くは屋根裏に上らないと見学できないものであり、これまで一般に公開することはできなかった。

今回、平城遷都1300年事業にあわせて、10月17日(日)から11月13日(土)までの28日間に限り、実際に屋根裏に上がって飛鳥・奈良時代はもとより平安・鎌倉時代から昭和(戦時中)の修理に至る様々な部材が組み合わさって残っている古建築の生きた歴史を直接感じるという、貴重な体験していただくこととした。

参加者募集の告知は、チラシ、ポスターを中心に行ったが、8月14日には新聞の第1面で、年輪年代法で今も日本最古の部材が現役で働いていることが判明したことが報じられるなど、全国的に反響を呼び、前評判も上々で満員の日が続出した。最終的には4500人余の見学があったが、事故も無く無事終了することができた。

また、期間中に下記のとおり2回の講演会も開催した。

第1回目 平成22年10月24日 「年輪年代法で判明した元興寺の古材」

講師 光谷拓実氏(総合地球環境学研究所客員教授)

第2回目 平成22年10月31日 「元興寺僧房の昭和の大修理」

講師 鈴木嘉吉氏(財団法人和歌山県文化財センター理事長)

(財)トヨタ財団 アジア隣人ネットワークプログラム

「修復技術の伝承による壁画保存力向上プロジェクト 韓国の文化遺産を救う」

平成22年度は、通度寺靈山殿多宝塔壁画と極楽庵寿世殿壁画の保存修復処置を完了した。多宝塔壁画をはじめ靈山殿壁画は韓国の宝物(国指定重要文化財)に指定され、修復施工した多宝塔壁画以外の壁画は平成23年度に補助金を得て修復される。韓国側より要請があれば協力したい。また、当該プロジェクトで伝えてきた膠は韓国国内で関心を集め、剥落止め等の修復処置や伝統的な丹青の絵具固着材に膠を用いる機運が高まっている。これもプロジェクトの波及効果として今後とも協力したい。

(プロジェクトリーダー 山内 章/彩色資料修復室)

(財)日本宝くじ協会助成

「文化財輸送・保護啓発広報車(シバラ 号)」

文化財を安全に輸送するとともに地球環境・文化財にやさしい最先端の美術品輸送車を開発し、文化財の保存・公開・活用を考え今回の「文化財輸送・保護啓発広報車」の発想に至った。現在CO₂の排出など地球環境の保全が叫ばれている中、文化財の輸送においても環境に配慮したエンジン、モーター+ディーゼルのハイブリッドを駆動力とした美術品専用車を開発した。

また、エンジンを休止しても文化財のコンディションを常時保つために、荷室内における温湿度の調整をソーラーパネルによる電力の供給・蓄電から行えるシステムも開発した。

あわせて、文化財の現地での調査・研究に対応するために、可搬型分析装置(X線回折装置・デジタルマイクロスコープ)を装備し、さらに、輸送中の文化財の衝撃を緩和するため荷室床に免震装置を設け、輸送中の文化財の状態を常時モニタリングするため各種のセンサーも搭載した。

これらの総合的な文化財輸送に寄与する車両の導入については、(財)日本宝くじ協会に助成を申請した結果、平成22年4月1日に助成決定を受け、以降仕様詳細を車両メーカー等と協議・検討の結果、車両は12月22日に納車された。

その後試験走行を繰り返し、平成23年2月22日当研究所で保存処理を行った道成寺の鐘巻銅鐸(和歌山県指定文化財)の返却輸送が、実際運用第1号となった。

奈良県補助

秋季特別展「元興寺之七不思議」

平成22年10月24日(日)~11月7日(日) (宗)元興寺と共催
元興寺総合収蔵庫

世界遺産として著名な元興寺であるが、その歴史については多くの謎が残されている。元興寺創建の過程、五重小塔の造立目的、智光曼荼羅のオリジナル...

本展覧会では、知られているようで知られていない元興寺にまつわる不思議、未解決問題をとりあげ、それを取り巻くさまざまな資料を展示し、新たな元興寺の魅力を発信した。

出陳物はそのうち、安政2(1855)年に焼失した元興寺五重大塔の部材で製作された二体の仏像(阿弥陀如来坐像、一刀彫大黒天像。いずれも個人蔵。一刀彫大黒天像は新出資料)は、五重塔の部材が形を変えて約180年ぶりに元興寺の地で再会した。

他にも、元興寺五重塔基壇出土鎮壇具(重文)、木造百万塔(奈良時代)、元興寺境内出土番衆札、如意輪観音摺仏(鎌倉時代)、地蔵印佛(アイタイ仏:室町時代)、荒神和賛(鎌倉時代)などが出陳された。

(18,000人)

奈良市補助

「元興寺仏教民俗調査」

奈良市内の古代寺院はこれまでの調査によって多くの事項が明らかにされてきたが、未だほとんど研究がなされていないのが元興寺の鬼瓦である。その原因は出土数の少なさにあるが、平成 22 年度事業では市内調査と静岡県牧之原市における関連調査を実施し、基礎データを蓄積した。

調査・研究成果については、『元興寺文化財研究所報』に掲載し、奈良市の教育委員会、図書館をはじめ全国の大学、文化財関連諸機関に配布を予定している。

2. 受託調査研究事業

研究部

文化庁受託事業

平成 22 年度『発掘された日本列島 2010 展』

文化庁（記念物課）と開催各館とが主催している「日本列島展」が、平成 20 年度から企画競争を前提とする公募形式になり、平成 22 年度も当該事業の請負者となった。

業務内容は、出陳資料の集荷・納品に係る輸送、資料の点検・展示・撤収だけに係わらず、展示パネル・キャプションの作成、ポスターやチラシの印刷・配布や関連資料の管理、調整のほか、開催各館や資料借用機関との調整など多方面にわたった。

中核展示は、旧石器時代の群馬県上白井西伊熊遺跡出土遺物から近代の徳島県坂東俘虜収容所まで各時代、各遺跡代表する資料約 400 点を展示した。

テーマ展示は、『キトラ古墳・高松塚古墳の保存と活用』と題してキトラ古墳出土遺物だけではなく、彩色壁面の剥ぎ取りに使用された「ダイヤモンド・ワーヤーソー」や陶板で復元した玄武（北面）と朱雀（南面）も展示した。

なお、開催館・期間及び入場者数は以下のとおりであるが、昨年度より 1 館増えて 6 館の開催であったこともあり、昨年度 10 万人を割り込んだ入館者総人数は 123,500 人を超えた。

なお、3 月 11 日に発生した「東日本大震災」により、東京都・群馬県・埼玉県及び福島県内から借用した資料の納品は、文化庁からの指示により延期しており、余震や納品機関の状況を勘案して納品する予定である。

東京都江戸東京博物館

6 月 5 日(土)～ 7 月 25 日(日) 7 週間

(入場者数 60,177 人)

青森県立郷土館	8月3日(火)～9月5日(日) 5週間 (入場者数 26,385人)
宮城県多賀城市埋蔵文化財センター	9月14日(火)～10月11日(月) 4週間 (入場者数 9,601人)
大分県立歴史博物館	10月22日(金)～11月19日(金) 4週間 (入場者数 4,028人)
香川県立ミュージアム	11月27日(土)～12月23日(木) 4週間 (入場者数 2,282人)
大阪歴史博物館	1月12日(水)～2月28日(月) 7週間 (入場者数 21,099人) (入場者総数 123,572人)

(1) 保存科学研究室

奈良県奈良市	東大寺	大刀、飾り金具等の分析
愛知県豊橋市	馬越長火塚古墳 <small>まこしながひづか</small>	金銅製品、琥珀等の分析
埼玉県朝霞市	一夜塚古墳	冑、大刀、鏡等の分析
鳥取県倉吉市	長谷寺	絵馬の顔料分析
大阪府河内長野市	松林寺	不動明王等の顔料分析
京都府京都市	和田岬砲台	構造材等の分析
愛知県名古屋市	愛知県美術館	木村定三コレクションの調査研究

埋蔵文化財の金属材質や有機物材質の分析、寺社建造物等の科学的調査などの分析業務を中心に行った。近年、分析対象となる有機物材質は、漆、繊維(天然、化学)、皮革、琥珀、アスファルト、セルロイド等多様化している。

(2) 人文科学研究室

奈良県桜井市長谷寺	文化財調査整理(継続中)
奈良県(財)大和文化財保存会	奈良県内寺社所有の版木調査(継続中)
大阪府泉南市	文化財総合調査(継続中)
大阪府堺市	ふるさと再生事業(継続中)
香川県	札所寺院の史跡指定に係る白峯寺詳細調査
愛媛県	四国へんろ世界文化遺産推進事業における札所寺院詳細調査事業 横峰寺
三重県津市	所蔵歴史民俗資料整理事業
奈良県橿原市	東の平田家民俗資料整理事業

継続して行っている長谷寺の什宝類文化財調査は、平成22年度も引き続いて実施し、『ぶざん はせでらしゅうい よんしゅうのいちそうはんいっさいきょう豊山長谷寺拾遺』第四輯之一宋版一切経の編集を継続した。

(財)大和文化財保存会の助成事業である奈良県内寺社所有の版木調査は、平成22

度年度も継続し、金剛山矢田寺を対象とした。

大阪府泉南市の文化財状況調査は6年度目にあたるもので市内2ヶ寺を調査した。

大阪府ふるさと再生事業は2年度目を向かえ、市立図書館所蔵の古文書の整理・目録作成・画像撮影を行った。

香川県の札所寺院の史跡指定に係る白峯寺詳細調査は、四国八十八箇所第81番札所寺院である白峯寺に所在する文化財のうち聖教・石造品・建造物などに関するもので昨年度実施調査の追加調査であった。

愛媛県の四国へんろ世界文化遺産推進事業における札所の詳細調査は、四国第60番札所横峰寺に所蔵される仏像・古文書古記録・絵馬・石造品・建造物などの文化財調査を行った。

三重県津市所蔵歴史民俗資料整理事業は、自治体合併にともなう既存資料館に所蔵される資料の整理と共通台帳化を行った。奈良県橿原市東の平田家民俗資料整理事業は、家屋の文化財指定ならびに公開に向けた所蔵品の整理を行った。

(3) 考古学研究室

和歌山県高野町	高野山大学（松下講堂黎明館）発掘調査出土遺物整理
奈良県橿原市	大藤原京右京三条五坊発掘調査現地作業
奈良県橿原市	萩之本遺跡発掘調査報告書作成
奈良県橿原市	奈良県立橿原考古学研究所 出土遺物整理活用事業
奈良県奈良市	「ならまち」整理活用事業
香川県丸亀市	丸亀市内遺跡出土資料整理業務
早稲田大学	アンコール・トム、バイヨン寺院出土鎮壇具の調査
福岡県久留米市	久留米藩有馬家墓所石塔調査

高野町は、高野山大学松下講堂黎明館建設に先立ち、和歌山県教育委員会が実施した調査で、出土した遺物の整理及び報告書作成を平成21年度から3カ年計画で行っており、平成22年度の業務は終了し報告書を提出した。

緊急雇用創出事業として、昨年度から行っている奈良県立橿原考古学研究所の出土木製品の整理及び同附属博物館で収蔵庫の整理を継続した。このほか奈良市の「ならまち」周辺から出土した遺物の整理も実施した。丸亀市は市中から出土した遺物の洗浄や実測を行った。

さらに、早稲田大学から依頼のあったアンコール・トム、バイヨン寺院から出土した鎮壇具は、亀形と皿型のもの内部掘削および簡易処理を行い、久留米市は藩主であった有馬家の墓所に所在する石塔を調査し、実測図を作成した。

(4) 伝世資料修復室

大分県佐伯市		重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具の保存処理
沖縄県本部町	海洋文化館	平成 22 年度海洋文化館資料業務
大阪府吹田市	国立民族学博物館	資料管理を実践するための基礎的研究
奈良県川上村	玉龍寺	玉龍寺移転に伴う寺宝の修復と移動
大阪府吹田市	吉志部神社	所蔵狛犬一对の保存処理
京都府京都市	月桂冠大倉記念館	展示資料の保存処理

平成 22 年度は後半期に沖縄海洋文化館の事業が決定し、2 月中旬において現地処置を実施し、3 月末に現地最終報告を行なって無事事業を完了した。

吉志部神社の狛犬の修復は、新築となった本殿前への安置据え付けが無事に完了し、事業を終えることができた。

国立民族学博物館においては 2 名が常駐し、資料管理のための基礎的研究を受託し研究を行っているが、3 月末日に研究成果報告を提出し受託研究を完了した。

月桂冠大倉記念館所蔵の酒造用具は、京都市の指定を受けており京都市からの補助金も使われ事業を行ない、無事資料の返納が完了し事業が終了した。

(5) 記録資料調査修復室

千葉県佐倉市	国立歴史民俗博物館	堺大絵図の修復、所蔵資料の状態調査
大阪府堺市	堺市立図書館	古文書等整理業務
愛知県名古屋市	名古屋大学	古文書の修復
静岡県島田市	島田市立博物館	古文書の修復
佐賀県佐賀市	サガテレビ	古写真の修復
岐阜県各務原市	大願寺	軸装品の修復
兵庫県神戸市	甲南大学	大坂関係絵図の補修・撮影
奈良県広陵町	広陵町大垣内区	絵図面の修復
奈良県奈良市	柏木町水利組合	絵図面の修復

平成 22 年度は、県内の広陵町、柏木町など区有文書の絵図面修復の委託があり、区の公民館などでも安全に保管・利用できるよう修復後の収納箱に工夫を加えた。

古文書の修復は漉嵌法^{すきばめ}を中心に、名古屋大学、島田市立博物館などを実施した。また大願寺の軸装品の修復は修理設計において人文と協力して策定し実施した。歴博の堺大絵図は、10 枚に分割された国絵図のうち 2 枚を、漉嵌法により平成 22 年度に修復した。

調査事業としては、平成 18 年度より国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を継続して行っており、平成 21～23 年度は金沢地方の民俗資料の状態調査を実施している。また、平成 21 年度より継続している堺市立図書館所蔵文書は、文書の簡易補修、マイクロ撮影、絵図面の修復と 4 × 5 撮影を実施した。

(6) 彩色資料修復室

京都府京都市	宮内庁京都事務所	京都御所杉戸絵の修理工事
京都府京都市	宮内庁京都事務所	京都御所紫宸殿賢聖障子ほか修理工事
兵庫県神戸市	神戸大学	神戸大学社会科学系図書館壁画の保存修復処置
鳥取県倉吉市	長谷寺	長谷寺の絵馬群保存会 倉吉市長谷寺奉納絵馬群の映像記録
鳥取県倉吉市	誓願寺	地獄極楽図絵馬の保存修理
福井県福井市	願念寺	願念寺本堂天井絵の保存修理
大阪府河内長野市	松林寺	松林寺所蔵不動明王三尊の保存修復
大阪府河内長野市	地蔵寺	厨子装飾彩色と仏像彫刻の保存修理
兵庫県神戸市	敏馬神社	船絵馬の保存修理
岐阜県本巣市	本郷自治会	法瑛寺観音堂厨子保存処理
大阪府東大阪市	春日神社	春日神社本殿修理報告書の作成

建造物彩色・杉戸絵・奉納絵馬・仏像彫刻の彩色など7賦彩された文化財の修復に膠を用いた処置はようやく定着し、委託先から示される修復仕様書においても膠を使う処置が主流である。特に平成22年度は建造物彩色分野の受託事業が多く、これまで合成樹脂による剥落止め処置が多く行われてきた当該分野に、膠を用いた修復処置を広げた年であった。

(7) 木器保存研究室

岡山県岡山市	岡山県古代吉備文化財センター	岡山後楽園花交の池木樋管保存事業
奈良県橿原市	奈良県立橿原考古学研究所	横田堂垣内遺跡出土木製品の保存処理
山口県山口市	山口県埋蔵文化財センター	田ノ浦遺跡出土ドングリピットの保存処理
東京都千代田区	山城淀藩永井家上屋敷跡遺跡出土墨書木札の保存処理	
愛知県清須市	清洲城下町遺跡出土柿経(束)の保存処理	

岡山県岡山後楽園花交の池より出土した江戸時代(元禄期)の全長18mの木樋管のうち、遺存状態の良い6m分を平成21年度から3ヵ年事業として保存処理を行っており、平成22年度は木樋管のPEG含浸後、表面処理を完了した。

平成20年度から継続していた奈良県大和郡山市横田堂垣内遺跡出土の削り抜き井戸枠は、亀裂部分の補填等の仕上げ作業を行った上で、展示保管用の支持台を作製して返却した。

平成21年度末に山口県熊毛郡上関町田ノ浦遺跡で取り上げ作業を行った縄文時代(後期~晩期)のドングリ貯蔵穴は、PEG含浸のうえ展示用安定台と保管用のガラスケースを作製して返却した。

東京都千代田区の山城淀藩永井家上屋敷跡遺跡から出土した墨書木札5点を、アルコール・キシレン・樹脂法で保存処理を完了した。

愛知県清須市清洲城下町遺跡より出土した、胴部に永享(1439)年の年号が記された柿^{こけら}経束に、含浸用の保護材を取り付け、真空凍結乾燥法で保存処理を行うためのPEG含浸作業に取り掛かった。

(8) 金属器保存研究室

奈良県奈良市	東大寺 国宝東大寺金堂鎮壇具 ^{ちんだんぐ} の保存修理
文化庁	国宝島根県荒神谷遺跡出土品保存修理
京都府京都市	京都大学総合博物館 重要文化財椿井大塚山古墳出土金属器の保存修理
兵庫県姫路市	重要文化財宮山古墳出土金属製品の保存修理
広島県福山市	広島県立歴史博物館 重要文化財草戸千軒町遺跡 ^{くさどせんげんちょう} 出土金属製品の保存修理
長崎県壱岐市	双六古墳 ^{そうろく} 出土金属製品の保存修理
三重県明和町	斎宮歴史博物館 史跡斎宮跡出土重要文化財保存修理
和歌山県日高川町	道成寺 銅鐸の保存処理
大阪府吹田市	関西大学考古学研究室 珠金塚古墳 ^{しゅきんづか} 出土短甲 ^{たんこう} の保存処理
愛知県豊橋市	馬越長火塚古墳 ^{まごしながりづか} 出土金属製品の保存処理

国宝の保存修理として、平成22年度から24年度まで東大寺金堂鎮壇具(金銀荘大刀など、奈良時代)の修理のうち、平成23年度は修理前調査等を実施した。

なお、当該調査・保存修理中に、金銀荘大刀二振の刀身から「陽劔」「陰劔」の銘文を、また銀荘大刀一振の刀身からは七星文と思われる文様の象嵌を発見した。

このうち金銀荘二振の大刀は、天平勝宝八歳(756)年の『国家珍宝帳』の中でも「除物」の条に記載される「陽寶劔」「陰寶劔」に一致することが判り、あわせて「除物」とされる宝物の存在が判明した初めての事例となり、世紀の大発見となった。

同じく国宝島根県荒神谷遺跡出土品(弥生時代)についても、銅劔、銅鐸の保存処理を行った。

重要文化財では、平成22年度から2ヵ年で京都大学所蔵・椿井大塚山古墳(古墳時代前期)出土銅鏡および鉄鏃などの修理、兵庫県姫路市・宮山古墳(古墳時代中期)出土刀劔の修理、および、広島県福山市・草戸千軒町遺跡(中世)出土飾金具などの修理、長崎県壱岐市・双六古墳(古墳時代後期)出土鉄鏃などの修理、三重県・斎宮跡(古代)出土轡の修理を実施した。

その他、継続事業としては、関西大学所蔵・珠金塚古墳(古墳時代中期)出土三角板^{さんかく}鋌留短甲^{ばんびょうどめたんこう}は、平成22年度から2ヵ年での修理予定で、平成22年度はクリーニング作業を行った。また、平成20年度から3ヵ年計画で調査および保存処理を実施してきた愛知県豊橋市・馬越長火塚古墳(古墳時代後期)出土遺物は、今年度が最

終年度となり、処理が完了した遺物と共に桐製の保管箱を作製して納品した。

新規導入されたシバラ 号により、保存修理が完了した道成寺所蔵・銅鐸（弥生時代後期）と支持台の納品と、新規事業として決定した志谷奥遺跡（弥生時代）の銅剣・銅鐸や岡田山古墳（古墳時代）出土遺物等の輸送を行った。

(9) 土器保存修復室

文化庁（近つ飛鳥博物館保管）	重要文化財家形埴輪・壺形埴輪（大阪府八尾市美園町美園古墳出土）保存修理
三重県明和町 斎宮歴史博物館	史跡斎宮跡出土重要文化財保存修理
兵庫県姫路市	重要文化財宮山古墳出土玉類の保存修理
奈良県奈良市 東大寺	国宝金堂鎮壇具出土漆箱の保存修理
奈良県奈良市 奈良国立博物館	館所蔵縄文土器の修理

国指定文化財としては、国保有・近つ飛鳥博物館保管の重要文化財美園古墳出土家形埴輪・壺形埴輪の保存修理、斎宮歴史博物館の史跡斎宮跡出土重要文化財高坏などの保存修理、兵庫県姫路市の重要文化財宮山古墳出土品のうち玉類の保存修理を実施した。

また、平成 22 年度から 3 ヶ年計画で奈良県奈良市東大寺の国宝金堂鎮壇具出土品の保存修理が始まり、当室では漆皮箱片とガラス玉類・琥珀玉類の修理に着手した。

その他、奈良国立博物館所蔵の漆塗縄文土器の保存修理等を行った。

また、当室では博物館向けの復元模造品の制作も継続して行っており、平成 22 年度は、株式会社乃村工藝社より委託された大阪府高槻市の今城塚古代歴史館向けの展示用の模造品制作を行った。

3 . 自主調査研究事業

(1) 対外研究交流の推進

宗教法人圓教寺性空上人調査委員会委員（狭川）

奈良文化財研究所客員研究員（狭川）

国立民族学博物館集団研修博物館学集中コース運営委員（植田）

国立民族学博物館共同研究員（川本、石井、角南）

人間文化研究機構連携研究員（金山、角南）

文化遺産保護協力事業委員会委員（狭川）

堺市文化財保護審議会委員（高橋）

阪南市文化財保護審議委員（高橋）

奈良県大淀町文化財保護審議委員（高橋）

三重県石造物調査推進会議 石造物調査指導員（狭川）

大阪市立大学客員研究員（山田（卓））
 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会役員（狭川）
 文化財保存修復学会誌編集委員（植田・山内）
 日本文化財科学会理事（植田）
 奈良女子大学古代学学術センター特任教授（植田）
 東大寺経巻聖教目録刊行調査団調査員（中川）
 戒律文化研究会委員（佐藤）
 日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会奈良県担当委員（佐藤）
 重要文化財金剛寺金堂等修理専門委員会委員（山内）
 財団法人北斎館北斎研究所特任研究員（山内）
 韓国・通度寺聖寶博物館客員研究員（山内）

博物館実習の受け入れ

4・8・9月	奈良大学	18名
8月	種智院大学	1名
8月	愛知みずほ大学	1名
8月	近畿大学	3名
8月	追手門学院大学	10名
10月	京都女子大学	5名

(2) 企画展の開催

「元興寺コレクション - 泰圓・泰善二代の軌跡 - 」

平成22年5月1日（土）～5月31日（月）
 (宗)元興寺と共催
 元興寺総合収蔵庫

中興開山辻村泰圓師と現任職辻村泰善師二代が収集した、ネパール、スリランカ、タイ、日本などの仏教民俗資料を通じて、元興寺の復興をたどる企画展を元興寺と共催で開催した。

「元興寺 須田剋太展」

平成23年2月11日（金）～2月27日（日）
 (宗)元興寺と共催
 元興寺国宝禅室

元興寺と須田剋太画伯との関係は、戦後の国宝建造物昭和修理事業と国土復興に係わる精神再生事業を目指した元興寺中興の祖、辻村泰圓大和尚との縁から始まった。昭和23年に復興された地蔵会はじめその後の献灯供養は、上司海雲師、杉本健吉氏そして須田画伯らが発起人となって始められた。また、節分会の復興、元興神

絵馬授与など事ある毎に須田画伯に作品の提供をお願いしてきた。

今回は25年ぶりに、辻村泰圓大和尚の時代に奉納され遺されたもの、追善供養に納められたもの、辻村泰善師晋山式に奉納されたもの、古材大衝立6脚など元興寺所蔵の須田画伯の作品の中から70余点を、元興寺国宝禅室内で展観した。

この時期の特別展の開催は初めてであり、また初日から大雪に見舞われるという厳冬の中ではあったが、多くの方に来場いただいた。

(6,400人)

(3) 調査研究開発および研究成果の発表

主な論文等

狭川真一

「平泉の石造文化」 『兵たちの時代 兵たちの生活文化』高志書院 5月

「水谷類著『廟墓ラントウと現世浄土の思想』『墓前祭祀と聖所のトポロジー』」

『日本歴史』748号 吉川弘文館 9月

「中世墓のなかの「やぐら」」 『坪井清足先生卒寿記念論文集』坪井清足先生の卒寿をお祝いする会 11月

「奈良県山添村中之庄所在五輪塔と地下遺構」(和泉大樹共著) 『歴史考古学』

第63号 歴史考古学研究会 12月

「木製笠塔婆の検討」 『野々江本江寺遺跡』石川県教育委員会・石川県立埋蔵文化財センター 3月

「光善寺跡五輪塔群雑感」 『瑞浪市歴史資料集』第1集 瑞浪市陶磁資料館 3月

「額安寺宝篋印塔実測所見」 『額安寺宝篋印塔解体修理報告書』大和郡山市教育委員会 3月

「伊賀の石造文化」 『伊賀市史』第1巻 通史編 古代・中世 伊賀市 3月

金山正子

「紙資料の修復」 『東海地区大学図書館協議会誌 No.55』12月

佐藤亜聖

「京都東山・長寿庵左阿彌所在五輪塔について」 『寺社と民衆』第六輯

民衆宗教史研究会 3月

「日本の石造物に見る中国の影響-石材利用変化の背景-」 『国際シンポジウム石の匠-石工技術から探る日中交流-』金沢大学日中無形文化遺産プロジェクト報告書 第7集 金沢大学人間社会研究域 6月

「平城京から奈良へ」 『季刊考古学』第112号 雄山閣 7月

橋本英将

「金銅装頭椎大刀から検出されるAgの解釈」 『遠古登攀』真陽社 6月

伊藤健司・植田直見

「Research of the Condition and Environment of Excavated Objects during Storage in Prefectural & Foundation of Hokkaido Archaeological Operations Center」

『The Journal of Cultural Heritage』Vol.8 韓国伝統文化学校 11月

主な研究発表

文化財保存修復学会第32回大会 岐阜市長良川国際会議場 6月

大久保治 「立山曼荼羅の自然科学的研究 - 糸魚川市金蔵院所蔵本の場合 - 」

小村眞理 「「藕糸袈裟」の染織技法に関する調査」

江野朋子 「京都大学総合博物館所蔵 庵寺山古墳出土靱形埴輪の保存修理」

山内章・木下雅代 「文化財保存修復に用いる和膠の生産研究と今後の展望」

石井里佳 「布資料の保存と保管方法について

- 新潟県十日町市柳染色加工所ろうけつ染め見本を例に - 」

日本文化財科学会第27回大会 関西大学 6月

山田卓司 「エジプト西方砂漠（オアシス）地域における環境調査

- 発掘遺構の気象変動について - 」

植田直見 「熱分解-ガスクロマトグラフィー質量分析による出土琥珀の産地推定について(2)」

塚本敏夫 「エジプト西方砂漠ハルガオアシス、アル・ザヤーン神殿遺跡の保存環境調査」

川本耕三 「東大寺大仏殿所蔵品の材質と製作技法の調査研究」

橋本英将 「古代エジプト美術館所蔵イビス像の製作技法」

日本文化人類学会第44回研究大会 立教大学 6月

角南聡一郎 「台湾先住民の連杯 - 酒造・飲酒の研究史と日本国内所在資料の関連性を中心として」

International Archival Culture Wxhibition 2010, Korea (韓国国家記録院主催)

三成洞貿易センター 6月

金山正子 「日本の記録資料の修復の現状」

奈良大学『平城京遷都一三〇〇年祭記念講演会、シンポジウム 平城京住宅事情』

奈良大学 7月

佐藤亜聖 「貴族の邸宅」

前近代都市研究会 大阪市中央公会堂 8月

佐藤亜聖 「中世都市奈良に関する考古学的研究」

第 96 回全国図書館大会奈良大会 帝塚山大学 9 月

金山正子 「資料を遺す修復技術 - 原資料の保存と活用を考える - 」

第 32 回韓国文化財科学会秋季大会 韓国伝統文化大学 10 月

伊藤健司・植田直見 「出土遺物の保管管理 - 北海道西部地域を中心として - 」

主な講演・研修会等

狭川真一

「元興寺とならまちの歴史(1)」大和歴史講座 京西公民館 5 月

「元興寺とならまちの歴史(2)」大和歴史講座 京西公民館 6 月

「元興寺とならまち」奈良市教職員研修 ならまちセンター 7 月

「中世武士の廟所」第 30 期つがやま市民教養文化講座

ライズヴィル都賀山 5F ロータス 8 月

「平城京十条条坊の発見」奈良ウェルネスクラブ歴史講座『平城京7話』8 月

「平城京研究の今日」田原本町歴史講座 田原本町中央公民館 10 月

「元興寺と奈良町の歴史」 奈良県立法隆寺国際高校歴史文化科教科科目学習

10 月

「渡来仏 火傷を負った金銅仏の例」 平成 22 年度大阪大谷大学文化財学科公

開講座 大阪大谷大学博物館 10 月

「元興寺とならまちの歴史」奈良検定上級教養講座 西部公民館主催 11 月

「元興寺旧境内を歩く」 近畿文化会臨地講座 11 月

「元興寺と奈良町を歩く」「菅原の里から西の京へ」 古都大宰府保存協会現地研
修会 11 月

「中世大和の葬送と墓制」奈良県立同和問題関係史料センター平成 22 年度県民歴
史講座講演会 奈良県解放センター2 階中研修室 12 月

「元興寺と奈良町を歩く」 南伊勢町文化財保護審議会研修視察 12 月

「中世大和の葬送と墓制」奈良県立同和問題関係史料センター平成 22 年度県民歴
史講座講演会 奈良県解放センター2 階中研修室 12 月

「元興寺と奈良町を歩く」 南伊勢町文化財保護審議会研修視察 12 月

「文化財をまもる」ということ」 平城東公民館 2 月

金山正子

「薬剤に頼らない資料保存」福井県文書館主催研修会 福井県文書館 6 月

「修復技術論」 国文学研究資料館平成 22 年度アーカイブズ・カレッジ

国文学研究資料館 9 月・名古屋大学 11 月

「後世に遺し伝えるために - 記録資料の保存修復」 甲南大学 10 月

「資料保存概論 - 「本の修理」を資料保存の観点から捉える」

図書修理マイスター養成キャリアアップ講座 2010 奈良県図書情報館 11 月

- 「記録資料の保存」新潟県歴史資料保存活用連絡協議会研修会
新潟県立文書館 11月
- 「紙資料・写真資料の保存」新潟大学 11月
- 「アーカイブズの危機管理 保存環境 - 記録資料の劣化抑制と保存修復 - 」
別府大学 1月
- 「古文書実習講座 - 古文書の修復」奈良県立図書情報館 1月・2月
- 「資料の劣化抑制と修復技術」千葉県史料保存活用連絡協議会研修会
千葉県文書館 2月

角南聡一郎

- 「古今いぐさ事情」特別展示『いぐさと灯心』関連講演会
安堵町歴史民俗資料館 4月

(4) 民俗資料の収集

(5) 元興寺文化財研究所民俗文化財保存会研究助成

4. 坪井研究奨励金

平成23年2月23日、鑄造遺跡研究会(代表者 京都橘大学教授 五十川伸矢氏)に、奨励金30万円を贈呈した。

鑄造遺跡研究会の概要とあゆみ

1980年代に、梵鐘や鍋釜などの鑄造に関する遺構や遺物が国内各地で相次いで発見され、鑄造遺跡の研究という新しい研究領域が浮かび上がってきた。

それらの未知の遺跡調査に関わった各地の埋蔵文化財調査員から、鑄造遺跡についての研究会を発足させようという機運が高まり、鑄造遺跡の報告・鑄造技術の復原・鑄物生産の民俗例・鑄物の文化財科学などの視点に立って研究発表と討論を行う研究会を、1991年9月に「第1回鑄造遺跡研究会」として開催した。

以降、毎年秋季に研究会を現在まで継続開催し、会誌として『鑄造遺跡資料研究資料』や『いもの研究』(広報誌)を発刊している。

5.その他

(財)三菱財団 人文科学研究助成

「中世武士の墓所に関する考古学的研究」

これまで継続して行ってきた日本の中世墓の研究結果だけでは、中世に最も権力を保有していた階層の墓所の実態が不明確なままであった。引き続きこの研究費では、そうした遺跡の発掘調査成果だけでは得られにくい、墳墓堂や石塔を中心とした武士の一族墓について研究を深め、中世の墓所の実態を明らかにしようとするものである。

(研究代表者 狭川真一 / 研究部・情報管理室)

読売あをによし賞受賞

平成 22 年 5 月 30 日に『第 4 回読売あをによし賞・特別賞』を受賞した。

同賞は、かけがえのない文化遺産を、優れた技などを駆使して最前線の現場で守り伝え、特に卓越した業績を挙げた人たちを顕彰する目的で、読売新聞社が平成 19 年に創設した。

見学の受け入れ

5月	JICA	11名
5月	東京藝術大学大学院	24名
6月	大阪教育大学	30名
6月	京都大学	20名
6月	勝山織物	10名
9月	皇学館大学	15名
9月	東北芸術工科大学	10名
12月	韓国建国大学校	10名
1月	新潟市埋蔵文化財センター	1名
3月	愛媛大学	2名
3月	宮内庁書陵部	2名
3月	日本建築家協会	29名

非常勤講師

奈良大学	保存科学実習（前期）、博物館学、考古学特殊講義（後期）
大阪大谷大学	日本民俗学（通年）
大谷大学	文化財概論（前期）、文化財修復論（後期）
追手門学院大学	博物館学
京都造形芸術大学	歴史遺産学 11a（スクリーニング）
関西大学	博物館実習(通年)、考古学概説（後期）

立命館大学	情報考古学（前期）文化財科学（前期） 学芸員のためのデジタル技術（後期）
大手前大学	文化財科学（集中）
桃山学院大学	博物館実習（夏期集中）

科学研究費補助金関係

平成 22 年度科学研究費は、継続分 9 件、新規分 2 件の研究課題が採択され、直接経費 16,700 千円と間接経費 4,410 千円の総額 21,110 千円の経費配分を受けている。

また、他機関より 7 件の研究分担金、直接経費 1,870 千円と間接経費 456 千円の総額 2,326 千円の経費配分を受け、全総額 23,436 千円の研究を実施している。

以下に、研究種目毎に区分し、課題名、研究期間、研究代表者、平成 22 年度交付金額の概要を順に記す。

基盤研究(A)海外

「日韓における保存処理後木製品の経年変化と保管管理の比較研究」

平成 21～25 年度 伊藤健司 3,100 千円

基盤研究(B)一般

「文化財保存修復に用いる膠の生産に関する研究～牛皮膠と魚膠を対象として～」

平成 20～22 年度 山内 章 1,100 千円

「日本中世の葬送墓制に関する発展的研究」

平成 21～25 年度 狭川真一 2,800 千円

基盤研究(C)一般

「指定品の展示・収蔵状況の実態調査～考古資料を中心として～」

平成 19～22 年度 岡本広義 1,000 千円

「木製横櫛の用材選択と製作技術に関する基礎調査」

平成 20～22 年度 木沢直子 1,000 千円

「中近世庶民信仰絵画の自然科学的・実証的研究」

平成 20～22 年度 高橋平明 1,100 千円

「民俗資料の塩分劣化とその対処法の研究～博物館実践型保存処理法の確立を目指して～」

平成 21～23 年度 石井里佳 1,000 千円

「金属成分の影響による劣化絵図面類の保存に関する研究」

平成 22～24 年度 近藤正子 1,400 千円

「東アジアにおける組紐製作技法の復元実験による検証」

平成 22～24 年度 小村真理 1,400 千円

挑戦的萌芽研究

「ゲル状態変化を用いた含水保存処理法の新規開発」

平成 21～22 年度 山田卓司 2,000 千円

若手研究(B)

「氏寺を中心とした中世地域社会構造の研究」

平成 20～22 年度 坂本亮太 800 千円

研究分担金受入

基盤研究(A)

「考古遺跡調査への情報技術導入実験～エジプト・アルザヤーン神殿遺跡～」

平成 22 年度 塚本敏夫 300 千円

研究代表者：東京工業大学大学院情報理工学研究科 亀井宏行教授

基盤研究(B)海外

「エジプト西方砂漠のオアシス地域における文化受容の研究～アムン神信仰の受容と伝播～」

平成 22 年度 橋本英将 200 千円

研究代表者：駒沢大学文学部 大城道則准教授

「地中海東岸地域における都市の形成と展開」

平成 22 年度 橋本英将 300 千円

研究代表者：天理大学文学部 桑原久男教授

基盤研究(B)

「飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究～出土品から見た川原寺の特質～」

平成 22 年度 尼子奈美枝 100 千円

研究代表者：関西大学文学部 米田文孝教授

基盤研究(B)

「日本『周辺』地域にみる国境変動とアイデンティティ：韓国・台湾との越境を巡って」

平成 22 年度 角南聡一郎 500 千円

研究代表者：県立広島大学地域連携センター 上水流久彦助教授

基盤研究(C)

「御影石製中世石造物の分布調査とその学際的研究～中四国・九州を中心に～」

平成 22 年度 佐藤亜聖 120 千円

研究代表者：高知大学教育研究部人文社会科学系 市村高男教授

挑戦的萌芽研究

「PEG含浸処理された木質文化財の正確な炭素14年代測定」

平成22年度 山田哲也 500千円

研究代表者：名古屋大学年代測定総合研究センター 中村俊夫教授